

コロナ禍後のクルーズ

(MSC ベリッシマに乗船して)

個人会員 藤木洋一

本年(2023年)1月13日、九州地区の朝刊で「MSC ベリッシマ」の日本発着クルーズの全面広告が掲載された。広告は、6月から9月までの旅行会社数社によるクルーズで、6月～7月にかけて台湾・那覇・南西諸島7日間、日本周遊と韓国10日間、西日本・韓国7日間、済州島。九州(博多)4日間のコースが紹介されていた。私は、7月27日横浜で乗船して済州島を経由して同月30日博多港で下船する4日間のクルーズを申し込んだ。このクルーズは海側バルコニー付きキャビン(アルコールを含むドリンクパッケージ付き)のみ129,800円/人で販売されていた。予約時、乗船の条件として①コロナ・ワクチン3回以上接種済み証明書②乗船前3日以内に行われたPCR検査結果または抗原検査の結果が陰性であることが解る画像の提示とあったが5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されたため不要となった。

「MSC ベリッシマ」(171,598総トン 全長315.85m 幅43m 乗客定員5,686人)は、2019年3月に就航し、2018年からアジアでクルーズに就航していた「MSC スプレンドィダ」(137,530総トン 全長333.33m 幅37.92m 乗客定員4,363人)と交代する予定であったがコロナ禍による休止後、2021年からサウジアラビア・ジェッダ発着航海クルーズに就航、2022年3月からは極東に移動し7月から日本発着のクルーズ就航予定であったが、国土交通省のクルーズ船受け入れ再開が本年3月になったことから4月26日、横浜に初来航。29日より大手旅行会社のチャーターで横浜発着、鹿児島～石垣～台湾(基隆)～那覇のクルーズに就航した。クルーズに先立って4月27日に横浜港で行われたセレモニーでMSCクルーズは2024年まで日本発着クルーズを本船で行うことを発表した。

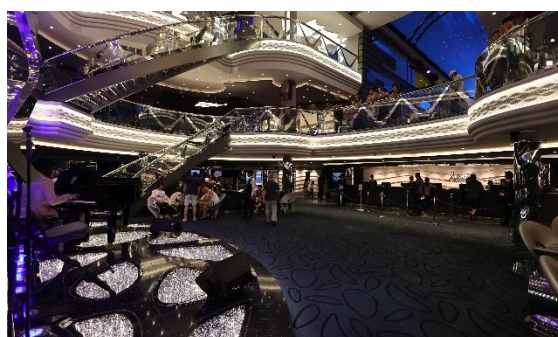
乗船10日前に旅行代理店から乗船券が送られて来てから「MSCベリッシマ」から導入された乗船前から使用できるアプリ「MSCフォーミー」をスマホに取り込み予約番号をインプットして船内設備やクルーズの情報を入手した。

出港日の7月27日8時30分のフライトで北九州空港から東京国際空港(羽田)に移動し、京急、地下鉄みなとみらい線と乗り継いで元町中華街に13時45分に到着。シャトルバスの乗り場がある山下埠頭で荷物を預けてバスに乗り、14時30分に大黒ふ頭に到着した。ターミナル1でセキュリティー・チェックを受け整理番号を貰って待機。30分後、ターミナル2に移動して乗船手続き、出国手続きをしてデッキ(以降Dと略す)4(リリカ)の乗船口より15時30分に乗船出来た。D10(シーサイドEVO)にある船室に行く前にデッキ5(オペラ)のゲストサービス横にある自動支払機でクレジットカードを登録してデッキ

10 (シーサイド EVO)の右舷側にあるキャビン 10340 に向かった。通路の所々には、MSC の過去と現在のクルーズ船のモノクロの写真が展示してあり、特に「シンフォニー」(旧「エンリコ C」15,889 総トン、1951 年建造) や「ラプソディー」(旧「キュナード カウンティス」17,495 総トン、1977 年建造)船影は郷愁を誘った。



D10 10340 パルコニーファンタスティカ



D5 Infinity Reception Guest service

部屋に着くとカードキーが反応しなくて入出できないトラブルが発生した。近くにいたキャビンスチュワードにマスターキーで入れてもらった。キャビンは、ツインベッドにソファ、シャワーとトイレ (ウオシュレットは無) ベランダで 2018 年 7 月に上海～横浜間に乗船した「MSC スプレディダ」とほぼ同じ配置であった。リセットしたカードキーを持参するとのことであったが 16 時の避難訓練が迫っていたので、船内新聞に記載された船内 TV で安全ビデオを見てドアの内側にある「緊急時の案内」に従って避難場所デッキ 6 (ムジカ)のライトハウス・レストランへ移動しようとしたが、指示通りの最短コースに向かったらスタッフに止められエレベーターホールから D7 (ファンタジア)の右舷側デッキからデッキ 6 (ムジカ)のライトハウス・レストランへ行くように指示された。キャビンには救命胴衣が備わっていなかったことを伝えるライトハウス・レストランで支給すると告げられた。避難訓練が終わってレセプションへカードキーの再発行に行くと同じようなトラブルを抱えた乗客が数人いた。レストランは、D6 (ムジカ)左舷側のイル・チリエッジョで 17 時 30 分に指定されていたが 17 時に大さん橋を出港する「ダイヤモンド プリンセス」と新港ふ頭を出港する「にっぽん丸」のツーショットをするため遊歩道「パワー ウォーキングトラック」のあるデッキ 16 (シービュー)に移動した。17 時 23 分に「ダイヤモンドプリンセス」、10 分後に「にっぽん丸」が横浜ベイブリッジを通過した。横浜ベイブリッジを通過する時は逆光であったが港外に出て横浜航路から浦賀水道航路に向かう時には順光になり「にっぽん丸」(22,472 総トン)が「ダイヤモンド プリンセス」(115,906 総トン)の中にすっぽりと収まるようなツーショットが撮影出来た。



17 時 23 分に「ダイヤモンドプリンセス」、10 分後に「にっぽん丸」が横浜ベイブリッジを通過した。横浜ベイブリッジを通過する時は逆光であったが港外に出て横浜航路から浦賀水道航路に向かう時には順光になり「にっぽん丸」(22,472 総トン)が「ダイヤモンド プリンセス」(115,906 総トン)の中にすっぽりと収まるようなツーショットが撮影出来た。

「MSCベリッシマ」は17時30分に大黒ふ頭を解纜、LNG 曳船「魁」のアシストを受けて横浜航路に入り「にっぽん丸」、「ダイヤモンドプリンセス」の後を追従する。横浜航路を出ると京葉方面から南下する多数の貨物船、タンカーなどの間に入り夕方のラッシュを迎えた浦賀水道航路に向かう。全長300mを越える船舶が小型船のように柔軟に



回頭して南下する船隊の中に加わっていく姿は、操船装置の進化を理解しつつも感動する。

左舷に東海汽船のジェットフォイル「セブンアイランド愛」続いて「橘丸」が中ノ瀬航路を北行するのが見られた。18時45分、横須賀沖で横須賀海上保安部の巡視船PS07「あしたか」の見送りを受けて浦賀水道航路に入る。18時50分日没、観音崎灯台沖を先行する「ダイヤモンドプリンセス」の船体が残照に映える。この後、東京九州フェリーの「はまゆう」が19時15分に浦賀水道に航路インするので期待していたが、遅れたため撮影できなかった。「MSCベリッシマ」は、19時10分に三崎半島剣崎沖を20ノットで南下していたが、部屋のベランダは無風状態で凹凸型の上部構造物の風に対する有効性が理解できた。20時過ぎに遅い夕食をD15(プチオーサ)の20時間オープンのマーケットプレイス・ビュッフェで取った。海を見ながら食事の出来るビュッフェは、「MSC スプレディ」でもお馴染みだが本船は、右舷と左舷に舷側から少し張り出した席と船尾にはオープンデッキがあり、航跡と丸い水平線を見ながらの食事は壮観だ。ビュッフェ内にあるマーケットプレイス・バーでビールを注文し、日本人シェフがプロデュースした日本食コーナーと様々なコーナーを巡回しながら食材を探した。特筆すべきは、本船にはモッツアレラチーズの製造コーナーがあり出来立てのチーズを味わうことが出来る。

食後、鹿児島へ向かう「ダイヤモンドプリンセス」の位置を確認したら大島の南側に針路を取り16ノットで航行していた。「MSCベリッシマ」は相模湾を20ノットで神子元島に指向していた。



D15 マーケットプレイス・ビュッフェの舷側に張り出した席



D15 ビュッフェの船尾のオープン・デッキ

翌7月28日5時、紀伊半島新宮沖で船尾よりご来光を浴びる。D16(シービュー) パワー・ウォーキング・トラックでシップ・ウォッチングを兼ねてウォーキング。「MSC ベリッシマ」は、伊豆半島石廊崎から大隅海峡までワンコースで航行するため沿岸からは遠く行き合い船に遭遇することはあまり期待できなかった。6時過ぎにD15(プレチオーサ)のマーケットプレイス・ビュッフェで日本食の朝食を取った。日本食コーナーには大量のタラコ、烏賊の塩辛、納豆、漬物、味噌汁などが並んでいた。日本発着の外国クルーズ船での日本食の定番メニューである。船舶に遭遇した時のことを考えて左舷の窓側に席を取った。6時45分、潮岬沖を通過するも潮岬灯台は見えない。中国・煙台から北米・ロスアンゼルスに向かうエバーグリーン社のコンテナ船「EVER LUNAR」(101,063 総ト 103,891 重量ト 9,532 個積)と反航する。この日に会った船はこの1隻だけ、360度青い世界、白い航跡だけが伸びていく。朝食後は船内散策、まずは昨日行けなかったD7(ファンタジア)の左舷シャンパンバーに設けられた旅行代理店へ行き昨日のカードキーのトラブルと船内新聞(旅行代理店発行)の遅延について原因を伺った。今回の乗船客5,000人を超えており、カードキーのトラブルはかなりあったようだが原因ははっきりしないとのことであった。船内新聞の遅れについても旅行代理店の部屋のカードキーのトラブルで荷物が搬入されなかったのが原因とのことであった。



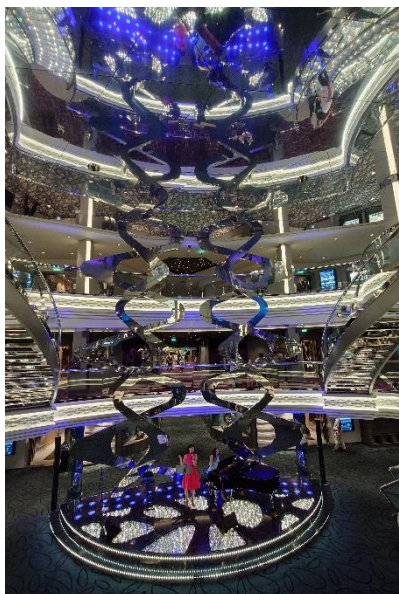
潮岬沖を中国から北米に向かう EVER LUNAR



D15 ビュッフェ 日本食コーナー

D7(ファンタジア)にはアトリウムから船尾方向にはインペリアル・カジノ、航跡を見ながらショーを楽しめるカルーセル・ラウンジがある。船首方向には、ベリッシマ・ガレリアの2層吹き抜けのプロムナードで洋上最大の、総面積480㎡、全長80mのLEDスカイドームも手に届くほど近い位置にある。両舷のプロムナードには寿司バー、パブ、ステーキ・ハウスなどが並ぶ。船体中央部のインフィニティ・アトリウムのスワロフスキー・クリスタルの階段をD6(ムジカ)に降りるとベリッシマ・ガレリアのプロムナードで長さ96mの通りの左舷入口にはショップがあり、乗船の記念品などを販売している。私は「MSC スプレンドィダ」でも購入した本船の1/1300のダイキャストの洋上モデルを\$49.90購入した。両側には世界の名店やブティックが並んでいるが中でも有名パティシエのジャン・フィリップ・モーリーがプロデュースするチョコレート店とカフェがあり、本船を模ったチョコレートの製作を実演している。華やかな大通りの先はD5,6吹き抜けのロンドン・シアターへと続く。アトリウムの船尾には本船の3つのメイン・レストランがある。左舷側の「イル・チリエッジ」右舷側の「ル・セリジェ」、それに食事をしながら航跡が見える船尾側の

「ライトハウス・レストラン」がある。また、フォトショップもこのデッキのアトリウムに設けられているが「MSC スプレディダ」で売られていた絵葉書は無く。乗船時に撮影したものと本船の写真、来年のカレンダーが1セット US\$ 64.98 で売られていた。



アトリウム



ガリレア・ベリッシマ



LED スカイドーム (MSC の歴史)



イル・チリエッジョ レストラン



ル・セリジェ レストラン



巨大なワインセラーが並ぶポシドニア
レストランの入口



航跡を眺め食事が出来るライトハウス レストラン

上部のデッキは、D14(ワールドクラス)の船首にブリッジがあり、その上部 D16~19 (D17は欠番) 特別エリアの MSC ヨットクラブがある。D15 (プレチオーサ)はビュッフェとプール D16(シービュー)はテクノジム、スポーツプレックス、ボーリング、D18(デヴィーナ)はスカイラウンジとキッズ・コーナー D19(スプレディダ)は3種類のウォーター・スライダーがあるアリゾナ・アクアパークなどのスポーツとエンターテインメント設備が目白押しである。また、ビハインド・ザ・シーン・ツアーと称して有料でブリッジ (\$ 50) とギャラリー (\$ 40) の見学が案内されていたが撮影が禁止されていたため参加しなかった。

28日 19時、宮崎県南郷町沖の日向灘で日没、続いて 20時都井岬を通過した。マリン・トラフィックで大阪南港に向かう「さんふらわあ きりしま」の反航を確認したが距離が遠く目視は出来なかった。22時には佐多岬を通過して東シナ海に向かう。



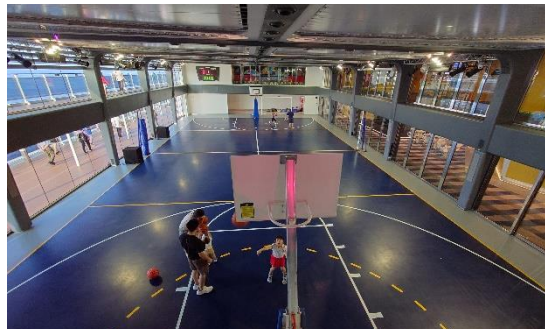
D15 アトモスフィ プール



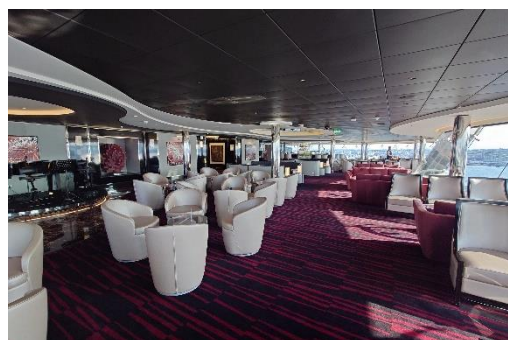
D19 ヨットクラブ専用エリア



D18 から D19 ホライズン プール



D19 アリゾナ アクア パーク



D18 スカイ ラウンジ



D16 スポーツプレックス

7月29日早朝、ドアに旅行代理店から「ハッピー・バースデー」の飾りと本船からのカードが挟んであった。この日は妻の誕生日である。今まで何度かクルーズ客船に乗船したがチャンスが無かった。今回のクルーズを決めたのも妻の誕生日が重なったことが大きい。MSCからは記念品としてロゴマーク入りの腕時計を頂いたが、レストランでのセレモニーは無かった。

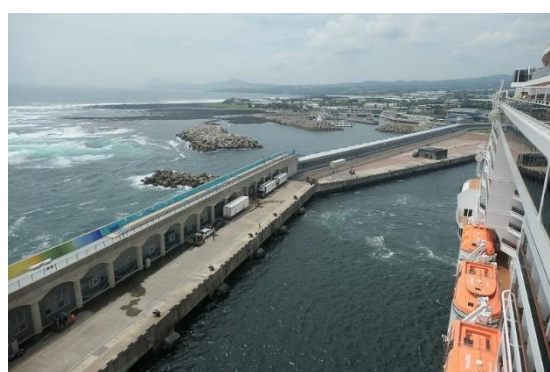
5時30分、男女群島の西で日ノ出を迎える。クルーズ船では毎度の光景だがデッキには日の出を撮影するカメラの列が並ぶ。7時30分には五島列島福江島の西に達した。マーケットプレイス・ビュッフェで昼食を取る。眼下に広がる東シナ海を眺めながらの朝食は格別である。食後のコーヒーも一味違った。8時30分、逆光の光る海にシルエットになったタンカーが反航してくる。韓国・蔚山から中東 UAE に向かう”V MARMONY” (153,947 総ト、2019年建造) である。このクルーズで合った2隻目の船舶である。

12時15分からライトハウス・レストランで昼食。窓側に座って入港する光景を見たかったのだが2人では断られた。それでもレストランの大きな丸窓からは濟州島とパイロット・ボートが近づいて来るのが見えた。

「MSC ベリッシマ」は13時30分に濟州島西帰浦江汀クルーズ港(ソギポカンジョン)に接岸した。濟州島は、中国と日本のクルーズ航路の中継点で発達した。コロナ禍前の2016年の統計では島の北側にある濟州港では、クルーズ船の寄港回数が507回、クルーズ観光客は120万人を記録している。濟州港のクルーズターミナルは14万ト級と8万5千ト級のクルーズ船専用岸壁があるが、今回寄港した島の南にある西帰浦江汀クルーズ港は、2013年に海軍基地として建設される予定であったが島民の反対運動に合い海軍基地とクルーズ・ハブ港(軍民複合型観光美港)とすることで合意され2017年に開港した。クルーズ船の大型に対応すべく港の西側の2,449mの防波堤に2,235mの係留施設を設け22万トクラスのクルーズ船が同時に2隻接岸することを可能にし、防波堤は遊歩道となっている。反対側は海軍基地で補給艦1隻、ミサイル駆逐艦979「ガン・ガンチャン」基準排水量5,588ト接岸していた。今回接岸した岸壁からクルーズターミナルまでは420mあるが2基のオート・ウォークが設置されて移動をサポートしていた。

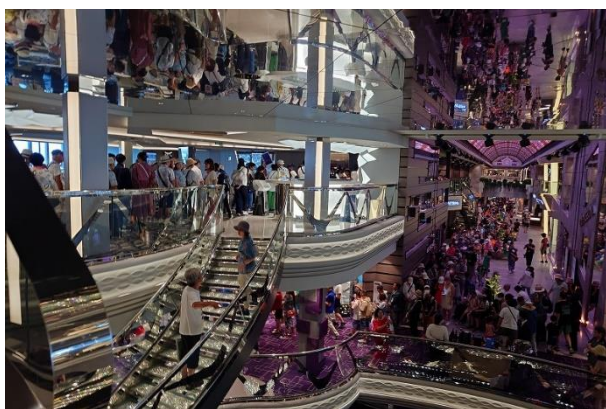


濟州島西帰浦江汀港の海軍基地



長い埠頭の右端が CIQ とクルーズターミナル

14時に下船開始されたのでD7(ファンタジア)までエレベーターで降りるとすでにベリッシマ・ガレリアのプロムナードを経由してD6(ムジカ)のロンドン・シアターからD5(オペラ)のポシドニア・レストランの前を経由してD4(リリカ)の乗下船口まで大勢の上陸者がかなりの密度で列を作っている。コロナが5類に移行したことからマスクをしている人もまばらで、密と喧騒の中から下船できたのは15時30分、CIQを通過してターミナルを出たのは16時前であった。ターミナル前から西帰浦市の繁華街オルレ市場までバスで30分、30分間隔でシャトル・バスサービスがあり料金は15ドル/人、オルレ市場行の最終便は17時30分で帰りの最終は19時30分で最終乗船時刻は20時30分であった。



ガレリアベリッシマのD7からD6に並ぶ上陸客



オルレ市場へ行くシャトルバスから撮影

私達は、港の周りを散策して「MSCベリッシマ」の接岸中の船影でも撮影したかったのだが、港付近の案内もなく鉄条網に覆われているところが多かったので、散策は諦めてシャトル・バスでオルレ市場まで行ったが、釜山チャガルチ市場に比べれば小規模のものであった。西帰浦江汀港は、済州港と異なり韓国本土からフェリーなどもなく。シップ・ウォッチングは韓国海軍艦艇以外望めなかった。

指定されたイル・チリエッジョ・レストランの食事は15分以上遅れると入れないためオルレ市場滞在15分で船戻った。同席されたご夫婦のご婦人は足が悪く杖をされていたが、体が不自由な方も長蛇の列に長時間並ばされていたことが話題となった。車椅子の方は特別なサポートがあったとのことだが、このような大勢の乗船者の乗下船方法については体の不自由な方にも配慮してほしいと思った。21時、博多に向けて済州島西帰浦江汀港を出港した。

7月30日5時30分壱岐水道で日ノ出を迎え、壱岐・郷ノ浦と博多港の中間点ある烏帽子燈台を6時30分に速力20ノットで通過した。並航する中国・寧波から博多港に向かうコンテナ船“SITC MOJI”(9,734総トン、12,737重量トン、コンテナ1,100本積)を軽く追いこす。この航海で初めて至近距離で追い越した船舶である。7時35分博多湾で水先人が乗船。7時57分港口の灯台を過ぎて、博多港に初入港する。

博多港で下船する乗客は80名、8時には部屋を空けるように指示があり、下船は9時20分にD6(ムジカ)のレストラン・イル・チリエッジョ前に集合して、パスポートを受け取

り D4 (リリカ)から下船との通達があった。時間まで D15(プチオーサ)のマーケットプレイス・ビュッフェで接岸作業を眺め、指定された時間に D6 (ムジカ)に降りるとアトリウムから観光客と下船客の区別はなく大混雑している。濟州島の下船時にも触れたが大半の乗客はマスクもなく大声での会話が飛び交っている。乗船前の案内書では、船内の安全対策として①密集の回避②徹底した検査の実施③強化された衛生管理とあり、特に①については、ターミナルでの密集回避。船内の定員数は、ソーシャルディスタンスが十分確保できる数に限定する。毎日キャビンにマスクが提供され、着用を促します。とあったが 5 類に移行されたことで実施されていなかった。私達も基礎疾患があったので、このような船内の状態を見て乗船後充分感染対策を行ったが、不安は付いて回った。そして、下船できたのは、10 時を回っていた。船会社に望むことは本船のような巨大なレジャー・ランドのようなクルーズ船の乗下船については、時間がかかることは承知するが乗船者が負担にならないように、たとえばデッキごとに時間を分けて乗下船するような配慮と工夫がほしいと思った。



博多港クルーズターミナルに停泊する「MSCベリッシマ」と「ニューかめりあ」